

今年も一年、よろしくお願いいたします。

治り方

本当に歯が痛い時って絶望的な気分になります。この痛みはいつ止むのだろうか、もっと痛みはひどくなるのだろうか。でもすぐ歯医者に行く時間もないし…。そんな経験はありませんか？市販の痛み止めを飲んだり、ぐっと我慢をしたりしていると落ち着くこともありますが、いても立ってもいられなくなることもあります。

お正月からあまり縁起のいい話ではありませんが、問題はここからです。なんとか我慢して痛みがなくなることがあります。「あぁ、良かった」と感じるのは当然なのですが、僕たちにとってはやっかいな状態に入っていきます。

前述のように痛みや腫れがひどい状態を急性症状、その状態を超えてあまり具体的な症状がない状態を慢性症状といいます。この二つの状態には治り方に大きな差があります。

急性症状があるときはとても短期間ですつきりと治りますが、慢性状態のときはなかなかすつきり治らず、時間もかかってしまうことが多いです。

例えば、典型的な虫歯であれば、一睡もできないほどの痛みであっても診療室で歯の神経の処置を施せばその日のうちに痛みはなくなり、数回の治療で全部の処置を終えます。ところが、



慢性状態の炎症が歯の根の周りにあり、いつまでもすつきりしない状態であれば、歯の根の処置をしながら

症状が消えるのを待つということになります。実際、数カ月様子を見ることもまれではありません。また、慢性症状だったものが治療により急性化し（痛みが出たり腫れたり）ようやく治っていくということもあるんですよ。

治療のやりすぎやあまりにも先手をうった治療はお勧めしませんが、急性の症状が出ているということは治療のタイミングを体が教えてくれているということなんです。つらい痛みに耐え、「俺はよく頑張った！」という気持はよくわかりますが、その後早めに見せてくださいね。

